

●はじめに .....	1
事例 1 相続発生から8年後にトラブルが発生したAさん.....	3
事例 2 姉が反乱!? 遺産分割協議が難航したケース .....	6
事例 3 相続税はかからなかったが.....	9
事例 4 後継者の育成に対する考え方が、事業承継のトラブルの引き金に.....	11
事例 5 株式を分散して、後継者が会社を失ったケース .....	13
事例 6 後継者に対する思いが暴走して、最悪の結果となる .....	15
事例 7 友情を大切にしたいために相続人に悲劇が .....	17
事例 8 方針の違いから会社が分裂.....	19
事例 9 事業承継対策の無策が悲劇を生む.....	22
事例 10 お家騒動 .....	24
◆まず何を考えるべきか? .....	26
◆事業承継を立体的に考える .....	27
◆事業承継対策には取り組むべき問題点が多い.....	28
●終わりに .....	29

## 事例 2

## 姉が反乱!? 遺産分割協議が難航したケース

## ◆家族のために黙々と貢献してきた長女

Aさんは、脱サラをして食品加工会社を設立し、30年かけて会社を發展させてきました。

設立当初は、奥さんと社員2人の4人でスタート、最初はなかなか軌道に乗らず苦労を重ねておられました。長女のCさんは、家庭の事情を考え、高校卒業後、総務と経理の仕事を手伝うようになり、仕事ぶりは非常に真面目で、同級生が遊んでいるのを横目に遊びたい盛りも我慢して、一生懸命働いていました。

その後、会社は順調に業績を伸ばし、経営も安定し、弟のDさん、Eさんは大学に進学し、Eさんは海外留学まで出来るほど、経済的にも安定するようになりました。

Dさんは、大学卒業後、某メーカーに就職し、そこで10年間勤務し、Aさんの会社に入り、技術面と経営面をサポートするようになりました。Dさんは結婚し2人の子供に恵まれ、奥さんは専業主婦で子育てと家事に専念し、Dさんが安心して仕事に打ち込めるように努めていました。Eさんは語学力を活かし某商社に入社、結婚し安定した生活を送っていました。

Aさんは、70歳を過ぎた頃、社長の椅子をDさんに譲り、奥さんも65歳で勇退し、会社の業績も順調でしたので、退職金で悠々自適に暮らしていました。

ところが、Aさんは78歳の時に脳梗塞で倒れ、その後はリハビリを続けましたが、後遺症が残り、自分では身の回りのことができず介護が必要になりました。奥さんも高齢でしたので、Cさんも仕事を続けながら介護を手伝いました。それから5年後、Aさんは亡くなりました。

Aさんは脳梗塞で倒れた後、自分の亡き後を心配し、Dさんに会社の株を毎年贈与し、相続で会社運営が不安定になることを避けようとしてきました。その甲斐もあり、相続税の負担はあったものの、配偶者の税額軽減や基礎控除、小規模宅地の評価減などもあり、奥さんや子供たちは相続税の納税でさほど苦勞せずすみしました。

## ◆おとなしかった姉が反乱を起こした!

ところが、夫を見送り相続の手続きも無事終わり、ホッとしたのでしょうか、認知症の症状が出始め、一人にしておく、徘徊などの症状があり危険なので、Cさんが会社を辞め、母につきっきりで介護をし、10年間献身的な介護を続け看取りました。そうして2次相続が発生し、遺産分割協議が行われました。

Dさん、Eさんは、法定相続分通りの遺産分割をしたいとCさんに持ちかけたところ、Cさんの怒りが爆発しました。

「私は家庭の事情を考えて、大学進学をあきらめて高校を卒業してから、ずっと会社を支えて



きた。あなた達は自分の行きたい大学に進学し、自分の思う道を歩いて、幸せな家庭も築いているじゃないの!! 私は仕事に追われ、遊びたいのも我慢して、出会いのきっかけもなく、独身で今まで来た。それは、構わないけれども、お父さんとお母さんの介護をし、一生懸命家族の為に尽くしてきたつもりです!! どうして、あなたたちは平等に財産を分けようなどと、平気で言えるの!?! 私は、そんな遺産分割協議に同意できません!!」

今まで文句一つ言わず、おとなしかった姉が反乱を起こした! とDさん、Eさんは思い、Cさんに対して、寄与分を考慮して遺産分割を考えようと提案しましたが、Cさんは態度を変えず、遺産分割は難航し、結局調停にもつれ込んでしまいました。

## 検証 inspection

### なぜ、このような問題が起こったのでしょうか?

background

#### 背景 1

Cさんは、会社の事情を考え、大学進学をあきらめて、高校卒業後すぐに経理の仕事を手伝うようになった。仕事は忙しかったが、自分が選択したので、友達が遊んでいるときも、大学生活を楽しんでいるときも、“私は私”と自分に言い聞かせ、頑張ってきた。会社が安定し、経済的にも余裕ができた頃、弟達は自分達の思い通りに生きているようにCさんには思えたが、やはり“私は私”と、父や母の介護も献身的に行ってきた。しかし、会社のために献身的に頑張ってきたために、失ったものも多かったのだ。両親の気持ちを考えて、抑えている感情もあった。

background

#### 背景 2

Dさん、Eさんは、愚痴一つ言わず献身的に介護するCさんに、すべて任せきりにしていた。Aさんの相続の際にもめることもなく、法定相続分通りに遺産分割を行ったので、二次相続も同じように考えていた。

## 問題点 issue

### ◆会社の安定・発展への貢献、両親の介護などに対する配慮が必要

Aさんは、会社の安定を考え、自社株対策と相続税対策には配慮していた。

Aさんは、もちろんCさんに常に感謝していたと思われるが、Cさんが高校を卒業してから、愚痴も言わず黙々と会社に貢献してくれてきたことに対して、配慮が欠けていた。また、弟のDさん、Eさんもおとなしい姉のCさんに甘えて、両親の介護など、大変なことはすべて任せていたことも配慮に欠けていたといえる。

遺産分割は平等であるが、家と会社を支えてきたという自負を持っているCさんにしてみれば、“権利主張だけをする”Dさん、Eさんに怒りを爆発させたわけだが、「寄与分を考慮して、遺産分割をしよう」と、後で提案してもCさんの気持ちは頑なになってしまっていた。

## 事業承継対策には取り組むべき課題が多い

事業承継対策など、まだまだ先のこととお考えのオーナー様は多いのですが、“事業承継”だけでも、現状把握、後継者の選定および育成、支配権の承継、事業リスクの問題点の再考、急な病気などで経営の采配が不可能な際の対策（任意後見人制度の活用）など多くの課題を、計画的に行っていく必要があります。5～10年程度かけて、対策を実行していきます。

事業承継の対策に合わせて、個人財産の承継についても対策を行いこちかも、5年～10年程度かけて、並行して対策を実行する必要があります。

事業承継問題を考える際に、早すぎるということはありません。

